

## 目 次

はじめに .....	2
I 昭和59年度 管理運営概要 .....	3
1. 組 織 .....	3
2. 予 算 .....	4
3. 事業計画 .....	5
II 昭和58年度 管理運営概要 .....	6
1. あゆみと日誌抄 .....	7
2. 入館状況 .....	9
III 昭和58年度 事業概要 .....	10
1. 常設展 刀剣コーナー .....	10
2. 移動展 .....	11
3. 特別展 .....	12
(1)岐阜県の考古遺物 .....	12
(2)長良川 .....	14
(3)郷土の生んだ先覚者 .....	16
4. 資料紹介展 .....	18
(1)くらしと文化 .....	18
(2)植物のルーツをさぐる .....	19
5. 資料調査収集活動 .....	20
(1)人文部門 .....	20
(2)自然部門 .....	22
6. 教育普及活動 .....	24
7. 図書・資料寄贈者芳名一覧 .....	28

## はじめに

当岐阜県博物館は昭和51年5月に開館、本年を以て9年目を迎えることになりました。その間順調に活動を続けて、本来の使命達成に努めてまいることのできましたことは、これひとえに、県民をはじめ関係の皆様方のおかげと、心から感謝申し上げております。

当館は本県唯一の総合博物館として開館以来、郷土岐阜県の過去をふりかえりながら将来を展望して、展示はもとより、資料の収集、調査研究、教育普及等、博物館活動を通して、県民各層に対し、お役に立つよう努力し広く県民文化の発展に寄与するよう実践してまいりました。

昭和58年度には、特別展の外、各種の教育普及事業等約32事業を実施してまいりました。いずれも、県民の皆様のご理解あるご後援によって、所期の目的を達することができました。

昨年10月28日には関係各位のご援助を得まして、岐阜県博物館友の会の発足をみることができました。博物館を愛し、博物館で学ぼうとする方々の交流を深め、相互の学習を高め合うことを目指して、現在187名の会員を擁するに至りました。まことに喜ばしい限りであります。

今年度は、春の特別展「濃飛の戦国武将」を大変盛況のうちに終えることができましたし、夏には「ふるさとの昆虫」秋には「美濃の蘭学」の特別展を企画いたし、準備をすすめております。

近年、生涯教育ということが提唱されてきて、社会教育機関としての博物館の立場も重要性を増してまいりました。こうした状況下における役割を十分に認識した上で、今後、常設展示、特別展のより充実を目指し、間もなく開館10周年という節目を迎えることも合わせて、常に新鮮で魅力ある博物館活動の推進を図っていきたいと考えています。

ここに岐阜県博物館報第7号をお届けいたします。今後ますます皆様方のご指導ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

昭和59年7月1日

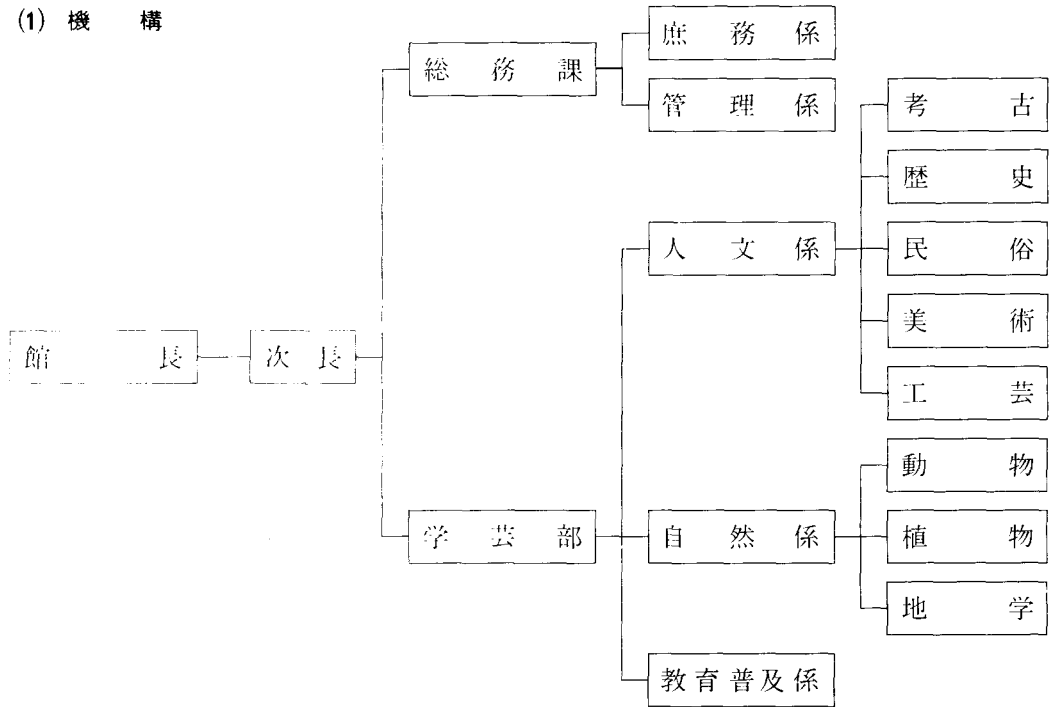
岐阜県博物館長

関 谷 美 智 男

# I 昭和59年度 管理運営概要

## 1. 組織

### (1) 機構



### (2) 職員

昭和59年4月1日現在

職名	氏名	職名	氏名
館長	関谷 美智男	○学芸部	
次長	山田 展明	学芸部長	川崎 立夫
○総務課		人文係長	増田 義夫
主幹(兼)総務課長	西村 義郎	学芸主事	片野 雅夫
主任主査(兼)庶務係長	中村 惇正	学芸主事(学芸員)	平田 公二
主任主事	川端 正な	学芸主事	徳松 正和
主任主事	早川 つ男	主任学芸主事(兼)自然係長(学芸員)	小川 保男
技師	林 敏彦	主任学芸主事(学芸員)	富田 芳雄
管理係	吉原 幸晴	学芸主事(学芸員)	笠原 三郎
主業	後藤 恵子	学芸主事	小野 藤志郎
業務	長谷川 伸由美子	学芸嘱託員(学芸員)	安藤 功太
嘱託	酒井 真章	教育普及係長	鈴木 良雅
嘱託	各務 清美子	教育主事(学芸員)	中井 巳次
嘱託	成瀬 智子	学芸嘱託員	中島 雅鉦
嘱託	鈴木		

(3) 博物館協議委員 (アイウエオ順)

◎印……会長      ○印……副会長

昭和59年6月1日現在

氏名	住所	現職
岩崎 潔	岐阜市加納上本町 4-25	岐阜県小学校長会長
奥村 保	岐阜市加納鉄砲町 1-17	岐阜県公民館連合会長
片桐 孝	岐阜市五坪町コーポ田神	岐阜県私立中学高等学校協会長
坂倉 又吉	羽島市竹鼻町 2733	千代菊(株)取締役社長
鈴木 勝忠	岡崎市中岡崎町 9-10	岐阜大学教育学部教授
瀬口 貞夫	各務原市尾崎北町 1-86	岐阜日日新聞社監査役論説委員長
○土屋 齐	大垣市荒尾町 1077	(株)大垣共立銀行取締役頭取
◎林 金雄	各務原市那加雲雀町 37	大垣女子短期大学教授
村井 実	岐阜市日光町 3-2	岐阜県高等学校協会長
山田 輝夫	岐阜市静が丘町 54	岐阜県中学校長会長

2. 予 算

当初予算額 (単位 千円)

区分	年度		昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度
	内 訳				
歳入	国庫支出金		500	-	-
	博物館使用料		9,198	11,023	9,140
	諸収入		281	281	308
	合 計		9,979	11,304	9,448
歳出	博管理物運管館費	運 営 費	24,725	26,745	25,026
		施設管理費	80,662	80,068	86,193
		博物館協議会費	260	284	284
		計	105,647	107,097	111,503
	博物館事業費	常設展示費	15,279	19,729	15,079
		特別展示費	6,500	6,500	7,000
		資料収集管理費	1,300	1,300	1,300
		教育普及活動費	2,300	2,300	2,300
		調査研究費	600	600	600
		計	25,979	30,429	26,279
合 計		131,626	137,526	137,782	

### 3. 事業計画

#### 展示活動

	期 間	主 な 展 示 内 容
常 設 展		1階自然展示室は郷土の自然、2階人文展示室は郷土のあゆみと、美術工芸を展示。刀剣コーナーは年4回展示替え
(特別展)濃 飛 の 戦 国 武 将	4/24～ 6/ 3	美濃の戦国時代を幕開けた斎藤妙椿と近世への道を開いた織田信長を中心に紹介
( " ) ふ る さ と の 昆 虫	7/17～ 9/ 2	岐阜県内に産する昆虫の生態やその分布状態を紹介
( " ) 美 濃 の 蘭 学	10/ 9～11/25	美濃出身の蘭学者の遺品を展示紹介し近代科学の発展をたどる
移 動 展	8/ 3～ 8/15	恵那文化センター
	8/18～ 3/31	揖斐川町中央公民館
		県内にみられる植物やほ乳動物を押し葉標本やはく製標本で紹介
(資料紹介展) 刀 装 具	12/16～ 2/ 3	鐔・目貫・小柄等の刀装具を紹介
( " ) 岐 阜 県 の 大 地 を つ く る 岩 石	2/10～ 4/ 7	岐阜県の大地をつくっている代表的な岩石を紹介

#### 教育普及活動

	期 日	対 象	定 員	内 容
講 演 会	5/20	一 般	100人	「美濃の戦国武将」 (東京大学助教授 勝俣鎮夫氏)
	8/ 5	一 般	100人	「ふるさとの昆虫」 (名古屋女子大学教授 佐藤正孝氏)
	10/14	一 般	100人	「美濃の蘭学」 (日本医学史学会評議員 青木二郎氏)
人 文 教 室	6/ 3	中学生以上	80人	「濃飛の戦国時代」 (岐阜市文化財審議委員 吉岡 勲氏)
	11/18	中学生以上	80人	「壬申の乱と岐阜県」 (岐阜大学教授 野村忠夫氏)
自 然 教 室	6/24	中学生以上	80人	「はげしい火山活動」 (岐阜大学教官 小井土由光氏)
	7/ 8	中学生以上	80人	「岐阜県のチョウ」 (名和昆虫博物館長 名和秀雄氏)
	9/16	中学生以上	80人	「中国や日本の薬用植物」 (岐阜薬科大学教官 田中俊弘氏)
岐阜県の歴史教室	5/ 6・ 7/15 10/21	中学生以上	30人	宝暦治水、木曾三川分流、輪中のくらし、をテーマに水とくらしを考える
親 子 考 古 教 室	7/22	親小・中学生	40人	縄文時代のすまい
	8/12	"	50人	火おこし器をつくろう
自 然 観 察 教 室	5/27・ 9/30	"	30人	百年公園の昆虫しらべ
	4/22・ 11/11	"	30人	百年公園の植物しらべ
親 子 手 づ くり 教 室	6/17	"	40人	お面づくり (講師 平井昭彦氏)
	8/26	"	40人	竹細工 (講師 石原文雄氏)
	12/ 2	"	40人	版画あそび (講師 平井昭彦氏)
	12/16	"	40人	しめなわづくり (講師 大野仁久氏)
人文 移動教室	5/13	一 般	23人	戦国武将ゆかりの寺をたずねて (岐阜市)
自然	10/28	"	23人	岐阜・根尾地域の自然をたずねて(地質めぐり)
自 然 観 察 会	7/28～ 7/29	親小・中学生	50人	板取村の自然観察(昆虫と植物)1泊2日
自然サンデー教室	5/ 6・ 6/ 3・ 7/22・ 8/19 9/23・10/ 7・11/ 4		入館者	自然展示コーナーの解説
自然スタディーコーナー	3・ 4月 5・ 6月 7・ 8月 9・10月 11・12月 1・ 2月 3・ 4月		入館者	ふるさとの火山岩、長良川のさかな、高山植物、石灰岩とカコウ岩、ネズミのなかまたち、岐阜のシダ、ふるさとの第3紀
夏休み研究相談室	7/24～7/29 8/25～8/30	小・中学生	—	夏休みの研究や、その整理のしかたについて、学芸員が相談に応じる
民俗芸能実演	4/30・ 11/ 4	一 般	—	関孫六太鼓 (関孫六太鼓保存会少年部)
日 曜 映 写 会	4/29～ 6/ 3	一 般	入館者 150人	8mm映画「岐阜市の文化財」(中世編)
	7/22～ 9/ 2	"		スライド、「ふるさとの甲虫・ふるさとのチョウ」
	10/14～11/25	"		スライド、「美濃の蘭学」

## Ⅱ 昭和58年度 管理運営概要

### 1. あゆみと日誌抄

本館は県民の生涯教育の場として8年目を迎えた。県内には博物館施設が120余館にのぼっているが、それらの代表的立場にある本館の役目はきわめて重要である。博物館の役割はいろいろあるが、ICOM（国際博物館会議）や我が国の博物館法に規定している次のことを着実に進めるべく努力している。すなわち、

- ① 自然物や文化遺産の収集、保存
- ② 自然物や文化遺産の調査、研究
- ③ 自然物や文化遺産の展示、及び、それらによる教育普及活動……………である。

①については昭58年度末現在で次のようになっている。・自然系：29,213点（展示物は2,360点、このうち今年度収集登録したもの1,227点）その他未登録品が約20,000点ある。・人文系：5,744点（展示物は1173点、このうち今年度収集登録したもの327点）その他未登録品が約130点ある。

②については自然系で「飛騨川上流域の学術調査」を進めており、本年度は第2年目で3年間をもってこの調査は一応の終止符を打つ予定である。人文系では「近世の教学についての研究」を行い、これらの研究成果は岐阜県博物館調査研究報告第5号に掲載した。その他特別展準備にともなう調査・研究や学芸員個々の県内動物、植物、地質或は考古、歴史、民俗についての研究も意欲的に進められている。ちなみに年度末の研究報告は「郡上郡北部の白垂紀流紋岩類について」笠原芳雄学芸員、「飛騨川上流域を主としたヤマハハコの葉形変異について」小野木三郎学芸員、「百年公園の昆虫相について」宮野伸也学芸員、「近世の教学について」片野雅夫学芸員主事である。未報告ではあるが、大野郡白川村帰雲山周辺地域の白垂紀火山岩類についての研究や、県内動物相の調査、県内岩蔭遺跡の発掘調査が行われ、これらについては逐次報告される。その他特別展準備のために「濃飛の戦国武将」、「県内の昆虫」、「美濃の蘭学」について研究調査を行ったが、その成果

は昭59年度の特別展に順次公開していく予定である。

③の展示・教育普及については本館業務の総括であり、県民への奉仕の主体であるが、次のような行事を行った。特別展示としては、春季に、原始から中世に至る考古遺物を通してみた郷土の歴史を紹介した「岐阜県の考古遺物展」を開催し、同時に信州大学大参義一教授による講演会を催した。夏季には動物、植物、地学の分野から流域の自然を探る「長良川」を、そして岐阜大学和田吉弘教授の解説講演会を催し、また秋季には新しい時代を築きあげていった郷土の先人の業績を紹介する「郷土の生んだ先覚者展」及び神奈川大学丹羽邦男教授の講演会を催し、それぞれ来館者の好評を得た。

その他8月に、県内の顕花植物や哺乳動物を持って土岐市文化会館及び垂井町文化会館に赴き移動展を開いた。また12月に生活の中に生み出された民具を通して文化の流れを紹介した「くらしと文化」、日本とアメリカの植物を通して自然の歴史を紹介した「植物のルーツを探る」等の資料紹介展を開いた。

これら展示の他に、京大江原昭善教授による「人骨は語る」、名大森下晶教授による「化石が語る郷土の生いたち」、岐大内幸雄教授による「森林のめぐみとわたしたち」或は県重要無形文化財保持者伊佐地勉可氏による「刀と人生」なる講演会及び学芸員による各種の教室を開き、県内外から多数の参加を得た。

入館者については51年5月の開館以来80万人目を本年5月7日に迎えた。しかし、今年度入館者総数は、75,530人（1日平均250人）であった。現在県内外に博物館及びその類似施設が次々と設けられ、本館への入館者数に対する影響は無視できない。本館としては県内唯一の総合博物館としてより一層充実し、県民の期待にそうよう努力したいものである。

岐阜県博物館友の会は従来のフレンドの会がより充実した内容として10月23日に発足した。現在会員187名を数え、活躍している。

## 日誌抄

### 4・1 人事異動

転出	学芸部長	太田 哲郎
	学芸主事	西村 覚良
	〃	横山 泰
	主 事	仙石 勉
	技 師	高島 利次
転入	参事兼次長	夏目 文夫
	学芸部長	川崎 立夫
	管理係長	吉原 敏彦
	学芸主事	片野 雅夫
	〃	小川 和英
	主 事	後藤 幸晴
	技 師	林 作男
新任	学芸嘱託員	中島 鉦次
	業務嘱託員	鈴木 智子

### 4・1 「博物館だより」第20号発行

- 12 名古屋高等裁判所長官一行来館
- 13 警備員 林芳男氏逝去
- 14 鹿児島県歴史資料センター「黎明館」一行来館
- 22 特別展「岐阜県の考古遺物」開幕
- 24 自然観察教室「百年公園の植物」
- 30 鳩谷県議会議員一行来館

### 5・7 入館者80万人目 記念品贈呈

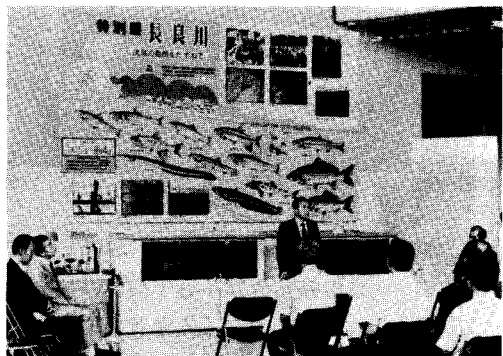


- 8 講演会「縄文人の生活」
- 15 歴史教室「小領主の分立と支配」  
自然サンデー教室

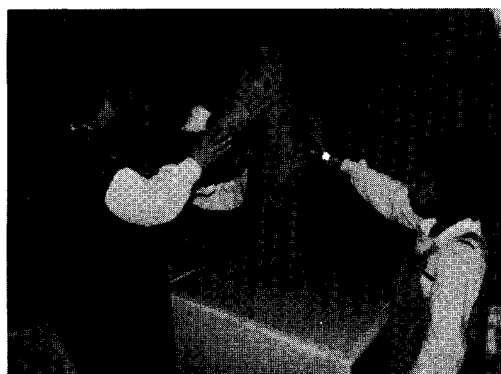
## 18 オーストラリア留学生来館



- 20 岐阜県博物館協会総会  
徳島県博基本構想検討委員会一行
- 21 総理府統計局調査部長等一行来館
- 22 人文教室「人骨は語る」  
岐阜県博物館協会セミナー
- 25 三重県博、三重県美術館長来館
- 29 親子考古教室「不破の関の発掘」  
上松岐阜県知事特別展観覧  
博物館フレンドの会総会
- 31 中部圏開発整備協議会幹事会一行
- 6・5 刀剣教室「刀と人生、刀の手入れ」
- 12 自然観察教室「昆虫の名前調べ」
- 19 自然サンデー教室
- 21 博物館協議会
- 23 富山県埋蔵文化財センター所長来館
- 26 自然教室「化石が語る郷土の生たち」
- 7・1 「岐阜県博物館報」第6号発行  
「博物館だより」第21号発行
- 8 文化庁記念物課桜井主任調査官来館
- 10 自然教室「岐阜県の鳥」
- 17 自然サンデー教室
- 19 特別展「長良川」開幕（9/4まで）



- 20 蒔田岐阜市長特別展観覧  
23・24 自然観察会（於高鷲村蛭ヶ野）  
歴史教室「農村のしくみ」  
8・2 移動展（土岐市文化会館）（8/15まで）  
7 講演会「長良川の鮎」  
11 川崎部長「国際環境教育会議」（於  
ニューヨーク）参加（8/24まで）  
14 親子考古教室「火おこし器をつくる」  
18 移動展（垂井町文化会館）  
（8/31まで）  
21 親子考古教室「火おこし器をつくる」  
自然サンデー教室  
28 自然教室「森林のめぐみと私たち」  
9・1 「博物館だより」第22号を発行  
学芸主事柴田佳章転出  
〃 安藤志郎転入  
2 徳島県企画部長、総務開発審議会長  
来館  
11 手づくり教室「竹細工」  
18 鐿製作工程一式受領（中津川市重要  
無形文化財保持者鐿師成木一彦氏より）  
22 資料購入委員会（刀剣）  
25 歴史教室「農民騒動」  
29 柳沢翠月画 南画「火牛」受納  
10・7 特別展「郷土の生んだ先覚者」開幕  
（11/23まで）  
9 フィラデルフィア会一行45名来館  
（視覚障害者コーナーにて）



- 9 自然観察教室「百年公園の植物」  
16 人文移動教室「先覚者のふるさとを  
訪ねて」

- 10・23 岐阜県博物館友の会発会式  
特別展講演「新しい時代を築いた人  
々」  
24・25 三重県博交流研究集会（於三重県伊  
賀上野市）  
25 豊橋市自然史博物館建設委員会一行  
30 自然サンデー教室  
11・6 自然移動教室「飛騨川流域の地質」  
9 百年公園と事務連絡会議  
10 四館連絡会議（於岐阜県美術館）  
13 自然観察教室「百年公園の昆虫」  
浅井名古屋市博物館長来館  
16 東海市長会一行180人来館  
18 刀剣「伝志津」受納  
19 自治省二橋参事官来館  
20 刀剣教室・自然サンデー教室  
上松岐阜県知事特別展観覧  
27 歴史教室「水と農村」  
12・4 手づくり教室「版画あそび」  
15 資料紹介展「くらしと文化」  
（1/29まで）  
日本野生生物研究センター山瀬理事  
来館  
18 手づくり教室「しめなわづくり」  
59年  
1・26 総合防災訓練  
2・3 奈良県社会教育委員一行来館  
8 名古屋高等検察庁刑事部長一行来館  
10 資料紹介展「植物のルーツをさぐる」  
（4/8まで）  
16 博物館協議会  
28 青森県教委文化課長来館  
29 秋田県博総務課長一行来館  
3・1 上松岐阜県知事、河村県議等来館  
11 友の会中濃史跡めぐり  
16 県博物館協会常任理事会  
31 「岐阜県博物館調査研究報告書」第5  
号発行

退職

- 参事兼次長 夏目 文夫  
学芸嘱託員 宮野 伸也



## 2. 入館状況

今年度は、入館者総数75,530人、開館日数302日であり、1日平均の入館者は250人であった。

開館以来、毎年ほぼ10万人のペースで進んできた入館者数であるが、今年度は天候不順等が原因で約25,000人減であった。

月別の入館状況は下表のとおりであり、春期の4月と5月、秋期の10月と11月の4か月で全体の約62%を占めている。

また、1日の入館者が最も多い日は5月の連休中であり、5月5日には2,879人を数えた。

なお、5月7日には開館以来80万人を突破し

ている。

団体入館者を見ると、351団体29,546人で年間総数の約39%にのぼり月別では10月が最も多く団体入館者総数の約30%を占めている。

更にこれを県内、県外別にみると県内が254団体17,441人で全体の約59%を占め、県外では愛知県が圧倒的に多く約39%を占めた。

特別展の入館状況については、通算開催日数は115日で49,735人であり、1日平均432人であった。また、総入館者数からみても約66%にのぼり、特別展への関心の高さがうかがえる。

### (1) 博物館入館者数

月別	小中生	高大生	一般	計	開館日数	1日平均
4月	2,829 <sup>人</sup>	853 <sup>人</sup>	3,041 <sup>人</sup>	6,723 <sup>人</sup>	26 <sup>日</sup>	259 <sup>人</sup>
5月	6,158	3,256	6,937	16,351	26	629
6月	1,846	335	2,878	5,059	26	195
7月	1,496	154	2,749	4,399	27	163
8月	2,192	274	3,480	5,946	26	229
9月	2,573	147	2,663	5,383	25	215
10月	9,051	650	4,140	13,841	26	532
11月	5,344	131	4,095	9,570	24	399
12月	247	67	921	1,235	22	56
1月	456	42	829	1,327	23	58
2月	349	76	1,102	1,527	25	61
3月	1,742	140	2,287	4,169	26	160
合計	34,283	6,125	35,122	75,530	302	250

### (2) 特別展期間中の入館者数

特別展名	期間	小中生	高大生	一般	計
岐阜県の考古遺物	58. 4. 22～58. 5. 29	8,071 <sup>人</sup>	3,435 <sup>人</sup>	8,277 <sup>人</sup>	19,783 <sup>人</sup>
長良川	58. 7. 19～58. 9. 4	3,519	404	5,378	9,301
郷土の生んだ先覚者	58. 10. 7～58. 11. 23	12,956	725	6,970	20,651
合計		24,546	4,564	20,625	49,735

### III 昭和58年度 事業概要

#### 1. 常設展

##### (1) 刀剣コーナー

第一期	第二期	第三期	第四期
太刀 銘友成 金象嵌銘直政用之	太刀 銘兼光 短刀 銘兼直 刀 銘和泉守兼定作	太刀 銘長谷部国信 刀 無銘直江志津 刀 銘濃州赤坂住兼元	刀 無銘志津 短刀 銘氏房 太刀 銘貞綱
脇指 無銘行光 脇指 銘正家作 刀 銘兼元	短刀 銘濃州関兼房 脇指 銘二王清実 永正五年八月日	太刀 銘波平行安 槍 銘九州肥後国同田貫信賀作 天正十九年八月日	刀 銘濃州住兼元 刀 折返銘備前国任雲(生)
短刀 金象嵌銘兼元 刀 銘兼定 槍 銘志津三郎兼氏 薙刀 銘飛騨守氏房	薙刀 銘備前国住長船七兵衛尉祐定 槍 銘相模守藤原政常 脇指 銘丹波守吉道	刀 銘備州長船勝光作 脇指 銘忠宗作 短刀 銘大慶直胤	脇指 銘丹波守吉道 短刀 銘兼直 太刀 銘兼光

#### 2. 移動展



▲ 土岐会場

岐阜県博物館では、移動展をはじめてから3回めになる。館の収蔵資料を紹介して、郷土の自然への関心を高めてもらうために、土岐市、垂井町で実施した。

展示テーマは、昨年同様「ふるさとの植物とほ乳動物」で、標本、資料、調査研究の成果を紹介し、特に県内の植物、ほ乳動物についての



▲ 垂井会場

基礎知識の普及を図った。

今回、特筆することは、土岐市文化会館、垂井町文化会館共に当県博物館と土岐市教育委員会、垂井町教育委員会との共催で実施することができたことである。両会場共に当局の強力な援助もあって、会場設営から会期中の管理体制あるいは広報・PR等万全であった。

## 土岐移動展

会期 昭和58年8月2日～15日  
会場 土岐市文化会館  
入場料 無料  
主催 岐阜県博物館 土岐市教育委員会  
入場者 約888人

## 垂井移動展

会期 昭和58年8月18日～31日  
会場 垂井町文化会館  
入場料 無料  
主催 岐阜県博物館 垂井町教育委員会  
入場者 約3,416人

## 展示内容

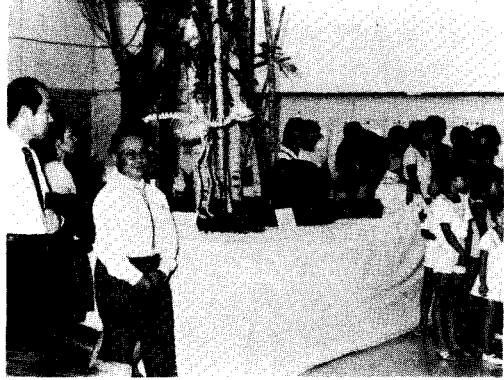
### 《県内に生息するほ乳動物》

- ①はく製標本 約20点  
モグラ科・ネズミ科・ヤマネ科・ウサギ科  
イヌ科・カピロミス科
- ②骨格標本  
ニホンカモシカ・ニホンイノシシ
- ③写真 約7点  
ホンシュウモモンガ・ホンドタヌキ・ムササビ・ニホンツキノワグマ・ニホンリス・ニホンザル
- ④解説用パネル  
趣旨パネル等 約7枚

### 《ふるさとの植物》

- ①帰化植物 ②タンポポのなかま ③ツツジのなかま ④スマレのなかま ⑤アザミのなかま  
⑥北方寒地性のなかま ⑦日本海側(多雪地)の植物 ⑧東濃地方の珍しい植物 ⑨ブナ林の植物 ⑩暖地性の植物 ⑪シダ植物  
複製標本 6点 植物標本 約250点  
カラー写真 約20点

以上の展示内容を実物標本約120点、写真30枚、図表、解説パネルで構成し、調査研究の成果の一部も含めて展示した。両会場とも夏休みを利用した小・中学生や親子づれの見学者で大いににぎわい盛況であった。



### 入場者の感想文より

・さい初、きそうまを見て、ほんもののうまと思いました。おかあさんに聞いたら、「中にわたがはいっているんじゃない」といいました。だからびっくりしました。

ほかに、いろいろあったけど、ぜんぶ生きていると思いました。動物のほかに、おし葉がいっぱいありました。とてもきれいでしたので、私はうちで、おかさんに作り方を聞いてつくりたいです。(土岐会場 小学校2年生)

・動物は動物園で数メートル離れてでなければ観察できなかったが、身近に観察でき、子どもの目も輝きを見せていました。身近な動植物を生で、生きた観察ができるようにこれからもこの様な企画をしていただきたいです。(土岐一般)

・郷土の自然と生いたちというものが、はっきりとわかり自然が私達に語りかけてくれるようだった。又、郷土のさまざまな自然がよくわかりとてもすばしかった。わたしたちの知らない郷土の特色ある動物・植物などすばしかったです。よい勉強になりました。(垂井・中学生)

・私たちは、学校では乳類のことを勉強したので、歯の形や、骨の組み立てのことでとても参考になり勉強になりました。これだけたくさんのはく製動物の展示ありがとうございました。

(垂井・中学生)

感想の一部であるが、どの感想にも子どもらしい驚きと発見の言葉がつつられており、移動展の成功を意味づけるものであった。

今後さらに内容の充実を図って発展させていきたいと考える。

### 3. 特別展

#### (1) 岐阜県の考古遺物

4月22日(金)～5月29日(日)

岐阜県の大地には、6,000か所以上の遺跡が埋蔵されている。これらの遺跡は、各時代に生きた人々がその土地に刻みつけた生活の痕跡であり、私達の郷土にかつて住んだ人々の生活を跡づけるためのかけがえのない遺産である。近年、県内各地で行われた遺跡の調査は、こうした人々の生活を跡づけるための数多くの考古資料を発掘し、私達に新しい知見を与えてくれた。

今回この特別展では、昭和47年度から10年間に出土した考古資料を展示し、縄文時代から奈良時代の人々の生活や、奈良時代から鎌倉時代にかけての陶器生産の様子などについて紹介するものである。

#### 展示構成の概要

展示は、第1「狩りと採集と」第2「大地を耕す」第3「古墳群のひろがり」第4「律令制のもとで」第5「陶器生産のながれ」第6「戦国武将のくらし」第7「人骨は語る」の7つのコーナーに分け、美濃・飛騨の地域性が各時代にどのようにあらわれてきているのかを把握できるようにした。

「狩りと採集と」のコーナーでは、縄文時代中期に規模の大きくなった集落跡からの出土品を中心に展示した。主な資料は縄文時代早期～晩期の各時期の土器、石鏃・打製石斧・石皿などの石器、玦状耳飾り・管玉などの装身具ならびに石棒・御物石器などの信仰遺物である。

「大地を耕す」のコーナーでは、弥生時代中期および後期の住居跡から出土した、一括遺物および方形周溝墓から出土した、副葬品などを展示した。主な資料は弥生時代中期～後期の壺甕・高杯などの土器、磨製石鏃・石庖丁・抉入石斧などの石器である。

「古墳群のひろがり」のコーナーでは、古墳時代後期の古墳から出土した、一括遺物を展示した。主な資料は杯蓋身・高杯・壺・皮袋形瓶などの須恵器、銀像嵌・直刀・馬具などの鉄製品

管玉・切子玉・三輪玉などの石製品である。

「律令制のもとで」のコーナーでは、奈良時代三関の一つである不破関跡からの出土品、「御野国加毛郡半布里大宝二年戸籍」の故地に比定されている東山浦遺跡および半布里遺跡の出土品および「美濃国」刻印の須恵器を焼成した、老洞古窯跡群の出土品を展示した。主な資料は盤・硯・「美濃国」刻印破片などの須恵器、軒丸瓦・筒瓦などの瓦類、「美濃国」陶製印などである。

「陶器生産のながれ」のコーナーでは、わが国でも有数な須恵器生産地であった、美濃須衛古窯跡群からの出土品、灰釉陶器・山茶碗の有力生産地であった、美濃古窯跡群からの出土品を展示した。主な資料は、杯蓋身、硯などの須恵器、碗、皿、瓶などの灰釉陶器、碗、小皿などの山茶碗などである。

「戦国武将のくらし」のコーナーでは、戦国時代の館跡からの出土品を展示した。主な資料は東氏居館跡および江馬下館跡から出土した、天目茶碗・青白磁瓶子などの中国陶磁、碗、小皿などの山茶碗、銭貨などである。

「人骨は語る」のコーナーでは、猿人から現代人までの頭骨、および縄文時代の屈葬人骨を展示した。主な資料は大型猿人頭骨（アフリカ・オールドバイ）・原人類頭骨（中国・周口店）・縄文人頭骨（丹生川村・根方岩陰遺跡）・屈葬人骨（愛知県・林ノ峰貝塚）などである。

#### 関連普及事業

特別展開催中の関連事業としては、信州大学教授大参義一氏による「縄文人の生活」と京都大学霊長類研究所教授江原昭善氏による「人骨は語る」の講演会を開催した。



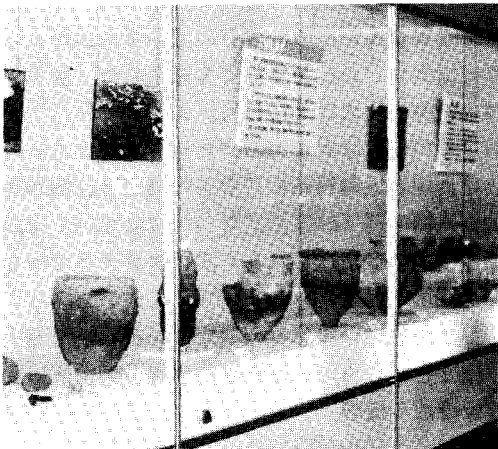
▲ 二階ロビーの看板



▲ 展示解説のようす



▲ 「狩りと採集と」の展示風景



▲ 「大地を耕す」の展示風景



▲ 「人骨は語る」の展示風景



▲ 講演会

## (2) 長良川一流域の自然をたずねてー

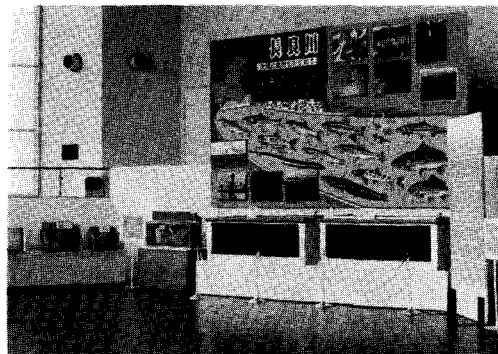
7月19日(火)～9月4日(日)

長良川は、岐阜県のほぼ中央を流れており、私たちの生活と深いかわりをもってきた、全長が158kmもあるふるさとの川である。郡上郡高鷲村に源を発し、海津郡海津町油島を経て伊勢湾に注ぎ、その流域の自然は、変化に富みたいへん豊かである。この特別展では、長良川流域の自然を総合的にとらえ、大地の成り立ちと動植物相や生態を、実物資料を中心に、写真・図表等を使って紹介した。当館が調査研究・資料収集した成果をもとに、県内外の各大学、流域の各漁業協同組合、動物・植物・地学各分野の研究者個人、その他多くの関係者各位からの資料提供などの協力を得て実施された。展示のねらいを、次のようにした。

- (1)長良川流域の大地のおいたちを理解する。
- (2)長良川流域の自然の豊かさに気づき、関心を持つ。
- (3)長良川流域に見られる自然のさまざまなつなかりに、目をむける。
- (4)長良川流域の自然を大切にし、それを自然公園として守っていくことの意義を理解する。

### 展示構成の概要

- ◎流域の大地のおいたちー美濃山地が海だったころ ・はげしい火山活動 ・古白鳥湖の時代 ・第四紀の流域 ・流域の地質
- ◎流域に見られる豊かな自然ー長良川のみなもとは(水源地の山々、湿原の動植物) ・流れの速い上流(滝・段丘、原生林、谷川の魚、

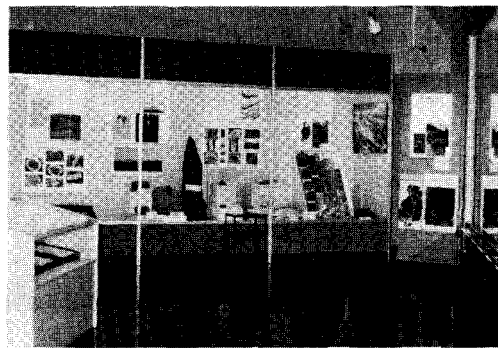


▲玄関ロビーの大看板と水そうによる生体展示  
山地のこん虫、鳥、けもの)・曲りくねった  
中流(曲流、川原の植物、中流の魚・鳥、魚  
のすみ分け、アユの一生)・ゆったりした下  
流(扇状地、自然堤防・三角州、水辺の植物、  
池のこん虫、水辺の鳥、下流の魚・動物)

◎変わりゆく自然の姿ー単調な川原の動植物、  
・水質と底生動物・河川のごこれ

なお会場の都合で、一階ロビーには、上・中・  
下流の代表的な魚を、水そうで飼育展示し、水生植物とともに、生きたまゝで観察できるコー  
ナーを設けた。二階ロビーの壁面には、上・中・  
下流毎に特色ある植物や、ヤナギ類、タデ類、帰  
化植物など植物標本展示コーナーを別に設けた。  
展示資料の概数

- 地学関係…岩石・鉱物・化石など実物資料約  
80点、写真・図表約50点
- 植物関係…腊葉標本・実物大乾燥標本約120  
点、写真・図表約30点
- 動物関係…こん虫・魚・鳥・ほ乳動物の標本  
約1,110点、生きた魚約100点、写真・図表約30点



▲流域の大地のおいたち～美濃山地が海だったころ→流域の地質へのコーナー

## 関連教育普及事業

動・植・地学の各分野を総合し、地域の自然の実態を紹介する特別展としては、昭和56年夏の「御岳山は生きている～大地と花と動物たち～」に続く二回目の企画であった。それだけに、現地調査及び資料収集に、本来なら多くの準備期間を要するが、わずか1年間の短期間でなされ、資料が充分収集展示されたとはいえない。期間中の8月7日(日)には、岐阜大学和田吉弘教授の「長良川のアユ」と題する講演会、8月28日(日)には、岐阜大学大内幸雄教授の「森林のめぐみとわたしたち」と題する自然教室を開催し、展示内容の深化拡大のための学習の場を設け、多くの方々の参加を得た。また7月23日(土)～24日(日)には、高鷲村蛭ヶ野高原一帯を会場に、1泊2日で源流域の自然観察会を開催した。毎回好評で定員一杯の申し込みがあり、湿原の植物や野鳥観察を主目的に、雨の降る中を熱心に野外学習会が行われた。

また入館者の方々には、手引きとして、「長良川の自然観察マップ、A2判・8つ折」を配布し、今後の家族行楽等での野外観察に役立ていただくよう留意した。展示内容をよりよく理解していただくために、カラースライド「長良川流域の植物」「長良川流域の動物」(各40コマ、10分)を自作し、日曜映画会として定期的に上映、団体見学のオリエンテーションにも活用した。

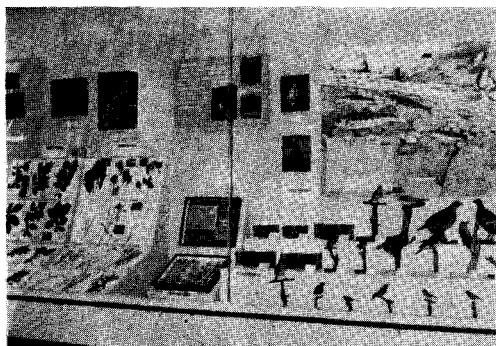
今後に向けて

今回の特別展実施に先立つ準備調査の中で、幾つもの新事実が見つかり、それが展示内容に

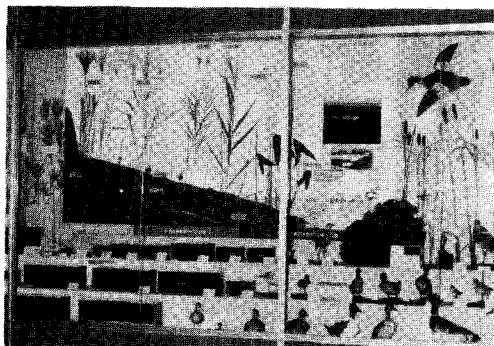


▲ 長良川流域の植物紹介コーナー

生かされ、最新の情報提供の場となった。たとえば地学面では、高鷲村西洞で得られたボーリングコアを調べることによって、地下に古い花こう岩があることがわかり、飛騨外縁帯の通る位置が、これまでより明確にされた。また、岐阜市三輪の建設工事現場の、地下15mからみつかった化石が、ジュラ紀中～後期のアンモナイトで、ジュラ紀のころ、美濃山地が海だったことがはっきりした。また動物面では、南方系で、本州では奈良県の春日大社で採集された記録があるだけのシャクガ科のオオツバメエダシャクが、流域の板取川で採集、新産地が確認された。植物面では、長野県軽井沢、関東北部より北に知られていたキク科タカアザミが、下流域に群生していることが判明し、これらの新産地の事実が展示された。資料収集・調査研究を土台にし、ふるさとの自然理解を目的とした特別展は、地域に密着した地方博物館として、今後とも、館の諸機能の十分な活動の裏付けの中で、いっそう推進すべき内容だと考えている。



▲ 上流域の展示コーナー



▲ 下流域の展示コーナー

### (3) 郷土の生んだ先覚者

#### —新しい時代を築いた人々—

10月7日(金)～11月23日(水)

幕末から明治時代へと日本が近代化への歩みをはじめた時期、人々は急転回する時勢の中でそれぞれの才能をあげて新しい時代を築き上げるために精一杯努力した。本県からも日本の近代化への歴史的役割を担った幾多の人物が輩出した。

本展は、こうした明治の変革期に新しい時代を志向し、生きぬいた30人の郷土の先覚者たちを紹介することにより、郷土に対する愛着を一層強めてもらいたいと願い企画したものである。とり上げた30人は、全国的な舞台で華々しく活躍した人々とともに、郷土に根をおろし、郷土の近代化の礎を築くために生きぬいた人々である。その生き方はさまざまである。・自藩の将来を考えるだけでなく、日本が新しい時代へと脱皮を図る支えとなって行動する。・新政府の施策を地域の実態と結び推進を図る。・新しい日本の姿勢を政治・産業・文化に反映させるために尽力。・岐阜県という一つの体制にまとめるために努力。・地域の脱皮と安定のために奔走するなど、新しい時代のさきがけとなって厳しい生き方をした人たちばかりである。

こうした30人の先覚者たちを、1、政治の前進をはかった人々、2、産業の発展をはかった人々、3、文化の進展をはかった人々と、3

コーナーに分けて展示構成をした。展示資料はその人をイメージできる肖像画をもとに、業績や人となりを物語る資料を配した。先覚者たちの遺品は、屏風や軸に仕立てられた書画をはじめ、刀、印籠、印鑑、筆墨、杖、笠、茶碗、勲章、はかり、聴診器など多種類にわたるものでその数も372点にのぼった。

期間中に実施したアンケート調査によれば、若い世代ほど郷土の先覚者に対する関心が低いことが明らかにされた。20代、30代でよく知られていたのは、坪内逍遙、下田歌子、名和靖である。40代から60代となると、それらに梁川星巖、小原鉄心、武藤山治、牧野英一、津田左右吉、高木貞治、青山胤通が加わって登場してくる。また、今回の企画に対して「教育問題多き中、先人の生き様の大きさを多くの人々に知らせるべく企画」と評価し、「県内にこんな有名人がいたなんて知りませんでした」とか「岐阜県出身の人々に立派な方がおられるのを改めて知り励みになります」といったことが付記された。その反面、「女性の方がただ一人だけで、せめて二、三人は集めていただきたかった」という企画に対する注文や、「大変有意義でした。もっと多くの埋もれた先覚者についてもこうした展示企画をしてほしいものです」とか、「偉人を紹介するコーナーを常設してほしいです」といった今後の課題となる意見も寄せられた。





さて、今回の特展を通して得ることができた成果は次のとおりである。

1. 今まで知られていなかった子孫の所在をつきとめることができた。(小崎利準、子安峻、青山胤通などの子孫の所在地)
2. 従来、誤ってきた先覚者の名前呼び方を正すことができた。(小崎利準の場合、オザキ→コザキ、早矢仕有的の場合、アリマト→ユウテキ)
3. 先覚者たちの個性的な生き方を紹介することができた。(2万人を超える入館者に)
4. 本特展の終了後、貴重な先覚者の遺品を子孫の方から寄贈を受けることができた。(佐藤三吉の遺品、牧野英一の遺品)

〈 資 料 提 供 者 〉

青木一郎	浅見専一郎	安藤貞子	医学文化館	石田謙一	糸野町教育委員会
岩手小学校	岩村町教育委員会	岩村町郷土館	大垣共立銀行	大垣市教育委員会	大垣市立図書館
大垣城	大久保喜美平	太田三郎	大坪長節	片野知二	可児郷土歴史館
岐阜県陶磁器陳列館	岐阜県立図書館	岐阜県歴史資料館	桐山悟	郡上高等学校	久世ちづ子
小池信三	国府町教育委員会	国民会館	小崎信彦	子安雄一	実践女子学園
住徳蔵	関根恒一郎	相馬澄子	曾我直綱	高山市郷土館	棚橋祥
田辺すえ	坪井一郎	遠山賀寿子	長屋芳江	名和昆虫研究所	西浦泰治
西山友子	日本医学文化保存会	丹羽邦男	間讓嗣	原喜一	原俊幸
日比野仙三	古田佐久間	牧野忠夫	牧野康夫	松野忠芳	水垣清太
美濃加茂市教育委員会	三輪春雄	牧原武男	武藤一治	武藤妙子	武藤治太
矢橋龍太郎	山田賢二	祐泉寺	読売新聞社	霊山歴史館	(敬称略、順不同)

展 示 資 料 点 数

番号	資 料 名	点数	番号	資 料 名	点数
1	梁川星巖関係資料 (肖像画、絶句、印譜、使用印等)	14	16	片野万右衛門関係資料 (肖像画、人物評、祝辞、門通之図、はかり等)	6
2	所都太郎関係資料 (肖像写真、刀剣、宿帳、自筆書簡等)	5	17	武藤山治関係資料 (肖像画、和歌、短冊、扇子、草稿等)	7
3	間秀矩関係資料 (肖像画、日記、家訓、和歌、印籠、拝領品等)	36	18	久世喜弘関係資料 (肖像写真、茶碗、一代記)	3
4	西山謙之助関係資料 (肖像写真、遺書、陣羽織、陣箋、訓令、書簡等)	8	19	子安峻関係資料 (肖像写真、英和字彙、勲章、読売新聞1号等)	6
5	小原鉄心関係資料 (肖像画、胸像、論政十二首、杖、笠、屋根瓦)	6	20	早矢仕有的関係資料 (肖像写真、短冊、時計、葉巻、菓子、書翰等)	23
6	遠山友禎関係資料 (肖像画、大礼服、袴、式装束、藩知事任命状等)	10	21	松井直吉関係資料 (肖像写真、入学通知、証文、学位証、辞令、デッサン等)	27
7	棚橋衛平関係資料 (肖像画、拝領の匕首、詩稿、山水画、硯、印等)	15	22	下田歌子関係資料 (肖像写真、塾則、歴史画、和歌、制服、勲章等)	19
8	神田孝平関係資料 (肖像写真、扁額、書簡、電報、著書等)	19	23	坪内逍遙関係資料 (肖像写真、原稿用紙、印、杖、色紙、帽子等)	14
9	朝比奈茂吉関係資料 (肖像写真、年賀状、心苦雜記)	3	24	牧野英一関係資料 (肖像写真、文化勲章、和歌、衝立、机、原稿等)	17
10	梅村速水関係資料 (肖像画、出役辞令、富札、早状、伺書等)	11	25	津田左右吉関係資料 (肖像写真、羽織、袴、帽子、ナイフ、著書等)	7
11	小崎利準関係資料 (肖像写真、肖像画、任命状、俳句、文書等)	9	26	高木直治関係資料 (肖像写真、卒業証書、辞令、自筆書、ノート等)	11
12	大坪二市関係資料 (肖像画、功労賞、金・銀章、木盃、農具揃等)	10	27	青山胤通関係資料 (肖像写真、勲章、煙草入れ、聴診器、書簡等)	7
13	西浦門治(五代目)関係資料 (肖像写真、花瓶、皿、葉巻立て、帽子、荣誉賞等)	16	28	佐藤三吉関係資料 (肖像写真、胸像、金盃、かざし、自筆書等)	11
14	浅見与一右衛門関係資料 (肖像写真、線路平面図、乗車券、カバン、記念証等)	15	29	名和靖関係資料 (肖像写真、ギフトチョウ、胸像、著書、日記等)	9
15	住民平関係資料 (肖像写真、申請書、契約書、信用は資本之基等)	13	30	坪井伊助関係資料 (肖像板、著書、竹の標本、置物等)	15

また、特展を契機に課せられた課題——先覚者展の続編の企画、先覚者紹介コーナーの常設——については、検討を加えながら実現させるようにはかっていきたいものである。

特別展開催期間中の催し物として講演会と先覚者のふるさとめぐりをした。講演会は神奈川大学教授の丹羽邦男氏により、「新しい時代を築いた人々」と題しすめられた。岐阜県民に対する批判と評価からはじまり、銭屋善兵衛の生き方を紹介しながら先覚者たちを二世代に分類し、岐阜県の近代化の過程を位置づけた講演は、聴衆に深い感銘を与えた。また、小原鉄心、棚橋衛平、片野万右衛門などのふるさとを尋ねる企画も好評であった。

#### 4. 資料紹介展

##### (1) くらしと文化 一火一

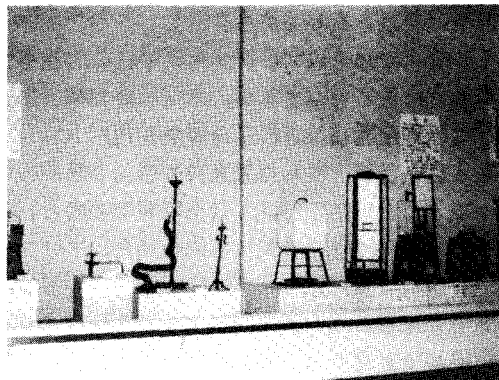
12月15日(木)～1月29日(日)



文化は、人々がくらしのなかで学び、習得し、さらに手を加え、世代から世代へと受け継ぎ作り上げてきたものである。

今回の資料紹介展では、火にかかわる文化をとりあげた。火は人間生活にとって、欠くことのできないものである。人間は自然のなかから火という強大なエネルギーを獲得することによって、食物を調理し、暖をとる、照明を得た。また、土器や金属器を発明し、やがて産業革命・近代工業へと火は大きな役割を果たした。このように、人間は火によって今日にいたる文明社会を築いた。一方人間は、火の神秘性から火を神聖視し、火の大きな恩恵に対し、畏怖の念を持って接し、崇拜してきた。この展示を通して、火が人間生活の発展に果たした役割及び昔の人々の苦勞や知恵を知り、現在の生活を見直すことを意図した。

展示は、第1「火とのかかわり」・第2「くらしをささえた火」・第3「やきものを発展させた火」の3つのコーナーに分け、火にかかわ



る文化を総合的に把握できるようにした。

第1のコーナーでは、人々が火の不思議な力に対して、これを神聖視したことから起った信仰をとりあげ、秋葉神社などの資料を展示した。さらに、火を起こしたり、火災を消したりする苦勞や知恵を、火きり具・火打石や龍吐水などで紹介した。第2のコーナーでは、日常生活を営むうえで、重要な役割を果たしてきた火を、「あかり」・「暖房具」・「炊事具」に分けてとりあげた。「あかり」は、釣手型土器から始まって、ヒデバチ・灯明具・灯台・行灯・燭台・提灯・ランプなどを時代順に展示し、それぞれが有効に使用できるように工夫されていることを理解できるように紹介した。また「暖房具」や「炊事具」についても同様に紹介した。第3のコーナーでは、火を使って生産するものとして、「やきもの」をとりあげた。縄文・弥生土器の野焼きから始まって、よりよいものを作るために、窯が作られ、それが変化発展してきた状態を分かりやすく展示した。

#### 展 示 資 料 目 録

No.	資 料 名	No.	資 料 名	No.	資 料 名	No.	資 料 名
1	火伏せの神棚	16	龍吐水	31	提灯入れ箱	46	土師器
2	秋葉神社の提灯	17	消防ポンプ	32	提灯張型	47	須恵器
3	秋葉神社の紋入り提灯	18	釣手型土器(複製)	33	吊ランプ	48	カヤ式土器
4	秋葉神社の御札	19	ヒデバチ	34	手提げランプ	49	灰釉碗
5	愛宕神社の提灯	20	灯明皿	35	竹台ランプ(ホヤ穴)	50	山茶碗
6	錐桶式火きり具(複製)	21	乗燭	36	行火	51	天目茶碗
7	舞籠式火きり具(複製)	22	灯台	37	箱火鉢	52	織部
8	火打鉄	23	有明行灯	38	瓶	53	釉薬
9	火打石	24	丸行灯	39	蒸籠		
10	麻がら	25	鉄製角行灯	40	鍋		資料提供者
11	火口(製作)	26	燭台	41	釜		明方村歴史民俗資料館、
12	火吹竹	27	手燭	42	茶釜		神戸町宮町区・井田区、
13	付木	28	箱提灯	43	縄文土器		個人(3名)
14	蚊火	29	小田原提灯	44	縄文土器製作工程(複製)		
15	苅口	30	弓張提灯	45	弥生土器		

## (2) 植物のルーツをさぐる

～ふるさとと北米の植物～

2月10日～4月8日

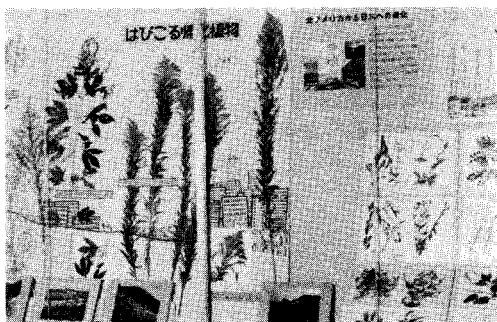
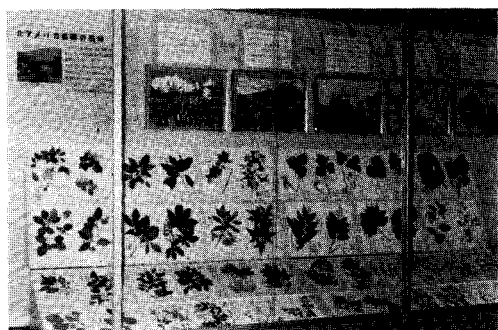
岐阜県の東濃地方を中心に、ごく狭い地域のみで自生するカエデ科のハナノキは、北米東部に隔離分布し、自然史上の象徴的な存在である。これと同じように、日本と北米東部には、起源を同じくする近縁植物が数多くあるが、その事実はあまり知られていない。そこで、北米カーネギー自然史博物館との交換資料や、県内から採集したふるさと産の標本を使い、日米の地史的な分布のつながりや国際交流の激化により目立つようになった帰化植物の実態等を紹介し、ふるさとの植物への関心を高め、植物についての基礎知識の普及に役立てようとした。

展示内容は、(1)学名とは (2)北アメリカ東部の植物 (3)比べてみましょう (4)ツンドラと日本の高山植物 (5)異なった植物たち (6)日本の特産植物 (7)急変する植物社会・北米へ侵入した帰化植物・北米から日本への帰化植物とし、(2)(3)(4)(7)のコーナーでは、北米産、日本産の標本を同じ属で対比できるように展示した。おし葉標本という色あせて平面化され、展示効果の薄い「もの」であるだけに、写真・図表等の副教材を活用すること、標本を見せるのではなく、標本で事実・真理を語らせるよう留意した。A・グレイの植物分布論仮説づくりの科学史絵物語展示、写真を添えた大パネルによる世界各地の自然景観絵地図展示、帰化植物の実物大乾燥標本の展示を取り入れ、展示の流れに強弱をつけ、黄緑色に統一した解説パネル、カラー生態写真等によって、会場全体の色彩美に配慮した。



展示品、日本産標本 150点、北米産標本 180点、植物複製品 6点、カラー写真50点、解説図表パネル類26枚であった。

会期中の総入館者は7,271名、記述式アンケートの回答は378枚、ふまじめ記入165枚、一応内容のある記述213枚であった。地味な標本展示については、大方の人々が、「きれいだ、ていねいに作られている』『これだけの標本を、一度に見たのは初めてで、あらためて標本のすばらしさを知りました』『今後も続けて欲しい』と好意的で、「手作りの暖かさが感じられ、系統だてて展示に努力が生きています』『写真が美しいし、イラストや図解があり、とてもわかりやすい』『時間に制限されず、ゆっくり静かに知識欲が満喫できてよい』などの声は、今後への励ましとなり、「標本作成上の裏方、過程などの展示もあると、標本の価値もより広く伝わるだろう』『レプリカを多くし、標本と併せて展示すると、立体的理解が深まる』『標本一点一点にカラー写真を添えて欲しい』等の声は、今後への反省事項であった。



## 5. 資料調査収集活動

### (1) 人文部門

	館			蔵	借 用	寄 託	計
	実 物	複 製	そ の 他	(寄贈物)			
考 古	1,809	201	45	(1,701)	600	175	2,830
歴 史	744	29	102	( 731)	325	14	1,214
民 俗	619	0	0	( 619)	0	0	619
美術・工芸	156	16	70	( 148)	252	588	1,082
計	3,328	246	217	(3,199)	1,177	777	5,745

複製には模型・ジオラマを含む(昭和59年3月31日現在)

### 1. 資料寄贈者芳名一覧(敬称略・順不同)

資 料 名	点数	芳 名
尖頭器	1	安藤 志郎
仏 頭	1	新井 潤
足踏式脱穀機、ラジオ オカメ、ジョリ編機	5	小野木朱実
筏の櫂	1	佐伯 兼作
鐺製作工程一式	64	成木 一彦
陶器類、皿等	225	飯沼 要
天 秤	1	夏目 文夫
火打石、火打鉄	2	田口 堯
佐藤三吉資料(胸像、 勲章、書ほか)	6	安藤 貞子
牧野英一資料(眼鏡、 欧文タイプライター、 原稿、名刺入など)	8	牧野 康夫
苗籠、オィネ籠	4	山本 政夫
木製1斗栱	1	塚原 茂
円空仏(レプリカ)	1	大橋桃之輔
小田原提灯	1	中島 克己

### 2. 美物資料の購入

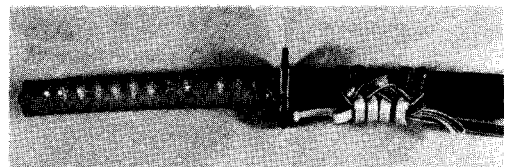
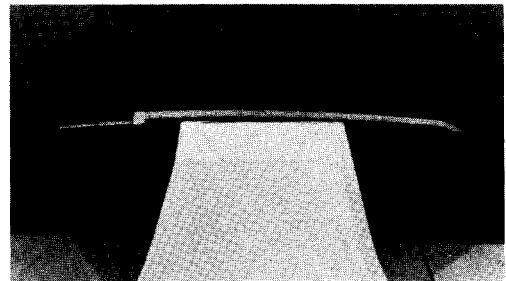
刀無銘、志津

### 館蔵資料紹介

●刀 無銘 志津(拵付き) <長さ69.6cm  
反り1.6cm、目くき穴2個>

鎌倉時代の末期、大和国の手掻派の刀工に兼氏がいた。兼氏は相州の名工正宗十哲にかぞえられた名工として知られる。その後、兼氏は、大和国から美濃国多芸郡志津(海津郡南濃町志津)に移住し、志津三郎を号して鍛刀をはじめた。この兼氏一門を志津、あるいは志津鍛冶という。今年度、この志津の手にかかり作刀された刀を購入した。

今回購入した刀は磨上げられて無銘であるが、志津の特質をよく具備しており、重要刀剣(財団法人日本美術刀剣保存協会)にも指定されている。また、拵も同協会より特別貴重小道具として設定されている。



当館では、前年度直江志津を購入している。直江津とは、先に述べた志津一門が多芸郡直江（養老郡養老町直江）に移住し作刀した期の作品をいう。この直江鍛冶の作刀期間は短く、その作例も少ない。それは直江の地が地形的に恵まれず、再び赤坂や関へ移住したからである。

このように、志津と直江志津の両者は多少の年代差はあるにしても、ほぼ南北朝時代に栄え美濃伝の基礎を築いた。美濃物は、その後、赤坂、関を中心に、刀工数においても作刀量においても大きく飛躍するのであるが、今度、館蔵として志津と直江志津がそろったことは、美濃刀剣創業期を知る上でたいへん意義深いことである。

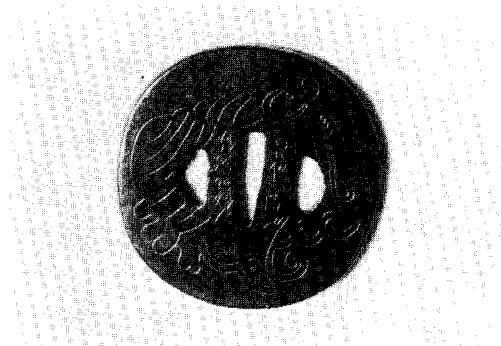
#### ● 鐺製作工程一式

この資料は、中津川市成木一彦氏より寄贈を受けたものである。昭和56年に中津川市の無形文化財（刀剣鐺の製作技法）に指定された成木一彦氏が、北海道・青森・茨城・岐阜・鳥取・鹿児島など全国16カ所の砂鉄や鉄鉱石を使って、鐺の製作を試みられたもので、貴重な資料である。それぞれ、砂鉄（鉄鉱石）・玉鋼・地鉄・鐺の4工程から成っている。

使用した砂鉄（鉄鉱石）

- ・北海道長万部丘砂鉄
- ・青森県下北郡東通村大字野牛字前山丘砂鉄
- ・青森県三戸郡五戸町大字上市川字大タルミ砂鉄
- ・岩手県釜戸市甲子川餅鉄
- ・岩手県久慈市周辺餅鉄
- ・茨城県鹿島海岸砂鉄
- ・千葉県佐貫町海岸八染川河口砂鉄
- ・新潟県刈羽郡西山町推谷浜砂鉄
- ・長野県野尻湖砂鉄
- ・岐阜県恵那市飯地町観音平鉄鉱石
- ・福井県九頭竜川河口砂鉄
- ・兵庫県穴栗郡下野字金屋千種川砂鉄
- ・鳥取県米子市浜砂鉄
- ・島根県斐伊川砂鉄
- ・山口県原狭郡楠町木部字木部鉄鉱石

#### ・鹿児島県宮古之城市川内川砂鉄

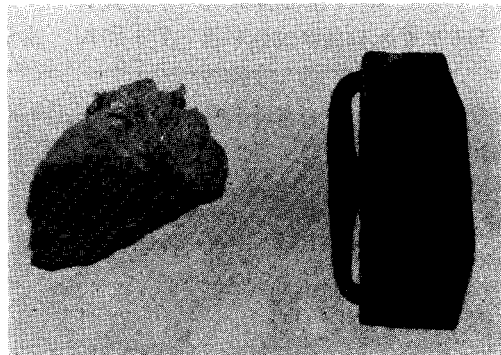


#### ▲ 恵那市飯地町観音平鉄鉱石使用

#### ● 火打石・火打鉄

この資料は、益田郡下呂町の田口堯氏より寄贈を受けたもので、江戸時代から使用されていたといわれており、貴重な資料である。昭和58年12月15日から昭和59年1月29日までの資料紹介展「くらしと文化－火－」の中で展示した。なお、火打石と火打鉄の使い方は次のようである。

火口（枯れ木やガマ・アサなどの草を焼いて、消炭をとり、それを粉末にして火が付きやすい状態にしたもの）を火打箱に入れ、火口の上で火打石に火打鉄を打ちつける。その衝撃によって生ずる火花を、火口で受け火種を作り、その火種を付木（檜・松・杉などの薄片の一端に硫黄を塗ったもの）に移す。付木が発明される以前は、火口で受けた火種を枯葉などの上に置き、口で吹いて火を燃やした。



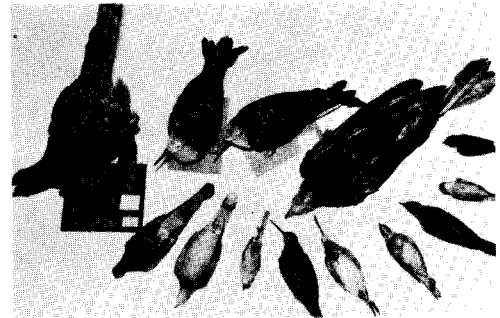
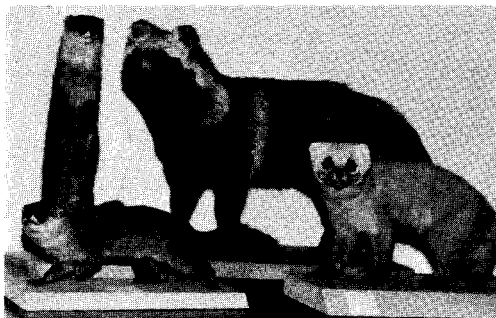
(2) 自然部門

	館		蔵		借 用	寄 託	計
	実 物	複 製	移管・自作 その他	寄 贈 (内 数)			
動 物	17,880	15	186	( 8,539 )	15	0	18,096
植 物	3,128	25	176	( 2,101 )	0	0	3,329
岩石・鉱物	1,622	5	71	( 457 )	20	3	1,721
化 石	1,429	31	19	( 826 )	48	19	1,546
そ の 他	57	22	133	( 15 )	0	0	212
計	24,116	98	585	(11,938)	83	22	24,904

複製には模型・ジオラマを含む (昭和59年3月31日現在)

1. 資料寄贈者芳名一覧 (敬称略・順不同)

資 料 名	点数	芳 名			
			イシガイ	2	赤塚 敏洋
イヌワシ・ライチョウ	2	高野 千春	トンガリササノハ	1	広瀬 啓司
ギンブナほか	4	山田 敦史	オオタニシ	3	高木 弘子
スキバジンガサハムシ	1	井上博明・圭	マシジミほか	2	串田 竜也
アクアリウム一式	1	堀 映夫	オオタニシ	2	水谷 久雄
カブトエビ	2	小川 敏雄	マシジミ	4	川元 博文
ドジョウ	15	木田小3の1	マシジミ	3	岡田 努
ライギョ	3	小松 繁孝	長良川の魚類標本	43	駒田 格知
タイリクバラタナゴほか	55	森 英信	長良川の魚類標本ほか	252	後藤 正
モ ズ	1	野末 善雄	オオサンショウウオ	1	熊田 国男
淡水産カイメンほか	14	宮崎 惇	トンボ・蝶	49	宮野 昭彦
アフリカマイマイ	5	フェデリック・ キラント	ヒメタニシほか	6	大野美也子
ドブシジミ	1	稲葉 恒司	ドブガイ	1	伊藤 さつき
アオダイショウ脱皮殻	1	高井 敏	ヤマトシジミ	17	古川 幸枝
ブルーギル	7	和田 吉弘	ベニカミキリ	2	西山 喜洋



資料名	点数	芳名				
			キジバト	1	服部	悦子
ニホンザル	1	山田 昭男	キジ	1	前田	次男
カブトエビ	2	近藤 章仁	イノシシ胎児	5	村瀬	昭雄
マムシ	1	服部 広敏	ブルーギル	1	吉田	茂
モグラ	1	横井 孝明	アユ	2	市橋	銀市
ニホンザルの頭骨	1	高島 一哉	ハヤブサ	1	吉田	康子
ナメクジ	1	広瀬 恵理	ヤマドリほか	3	三島	善神
カラスガイ	2	三田 幸三	県内産植物標本	1,000	二村	延夫
ツキノワグマ頭骨	1	嶽本 清一郎	県内産植物標本	1,000	長瀬	秀雄
シカの頭骨ほか	5	今井 竹次	カヤの実	6	安藤	伊佐雄
オオミズナギドリ	2	前田 敏生	オニフスベ	1	坂口	祐康
モズ	1	篠倉 勝利	マリモ	2	宮崎	惇
カジカほか	120	野村 真富	褐鉄鉱団塊(鳴石)	20	竹下	一郎
コイほか	12	中央 漁協	カナダ産ハチノスサンゴ	3	立松	正衛
ナメクジ	1	足立 真一	古琵琶湖層産淡水貝類化石	24	宮崎	惇
トビ	1	川口 千章	飛騨外縁帯ハチノスサンゴ	2	竹中	実
ドバト	1	岩村 ゆき子	白鳥湖成層産植物化石	30	鵜飼	修司
コジュケイ	1	安藤 惇	プロシアン銅鉱など鉱物標本	66	伊藤	洋輔

## 2. 化石資料の収集

58年度は吉城郡上宝村福地オソブ谷地域に分布する古生代デボン紀～石炭紀の動物化石を中心に収集した。

この地域からは日本最古の化石を含む動物化石が多く産出し、日本における前期古生代の化石産地として5指にあげられている。しかし山地の荒廃や人工破壊などのため採集可能な資料が年々種類、個数とも激減している状況である。

収集指導者として東京大学教養学部の浜田隆士教授をむかえ、また本邦一流の化石採集家の協力を得て3日間・約120点の床板サンゴ・腕足類・三葉虫などの動物化石を収集した。

## 3. 常設展示構成充実準備調査

自然展示室1・2各室の展示内容を、最新の調査研究成果をふまえてこれをわかりやすく普及するように各コーナーの内容に関係する諸資料の調査を行っている。

展示資料の質的・量的な充実を期すため、前年度に続いて現地調査・実物・写真・文献等の各資料の収集を行った。

各分野の成果の概要は次のとおりである。

地学分野……………大野郡白川村なご谷地域の濃

飛流紋岩の調査収集。

恵那郡明智町・串原村地域の領家帯花こう岩・変成岩の調査収集。

本巣郡梶尾村能郷白山南方の花こう閃線岩の調査収集。

加茂郡白川町地域の金属鉱床(廃抗)中鉱物調査収集。

動物分野……………郡上郡高鷲村蛭ヶ野の蝶と蛾の標本収集と生態調査。

カモンカ調査及び標本作製のための個体収集。

大野郡朝日村青屋の昆虫調査百年公園齧歯目(ネズミ科)の調査。

植物分野……………県内各地から、分布地理学的に注目される植物群の腊葉標本の収集(スマレ類・ヤマハハコ類・東濃に特産する植物北方寒地系植物)及びカラーコルトン交換用植物生態写真の撮影(日本海要素植物、北方系植物、氷河期遺存植物)と現地生態調査。

## 6. 教育普及活動

### (1) 概 略

ひらかれた博物館としての教育普及事業・活動の役割は大きい。昭和58年度も、昨年度にも増して県民にはたらきかける教育普及をめざし活動してきた。講演会、各種の教室、あるいは移動展とそれぞれにおいて内容の充実をはかり、来館者の要望に应运ってきた。移動展以外の各種事業の参加人数は総計1,080人であった。前年度の1,062人に比してわずかばかりであるが多くなったのは、刀剣教室などの新設教室によるものである。

新しい教室としては、刀剣教室、考古教室の火おこし器をつくろうなどである。

昭和58年度の教育普及活動の内特筆すべきことは、岐阜県博物館友の会の発足である。開館以来、友の会の発足が望まれながら、いろいろな事情により延びていたが、10月23日発足できたことは喜ばしいことであった。

#### ○ 講演会及び各教室等

特別展の記念講演会3回、人文、自然教室4教室、他各教室19教室、合計26教室を催した。新設の教室は刀剣教室の教室、手づくり教室（版画あそび）で多くの参加者に楽しく勉強してもらった。特に刀剣教室では当館の刀剣展示の相談、手入れにお力添えをいただいている、県重要無形文化財保持者、伊佐地勉可氏と同じく中田兼秀氏を講師に先生方のお仕事を通しての人生観を学ぶことができた。

演会では、大参先生の「縄文人の生活」では162名、江原先生の「人骨は語る」では128名の多数の聴衆で盛会であった。



他に特筆すべきことは、親子考古教室の火おこし器をつくろうと手づくり教室である。こういった参加する教室、体験教室が大変人気があり希望者が多く、かなりの人に断らねばならない状況であった。これと同様、移動教室、自然観察会なども、広報されると直ちに定員に達するという盛況ぶりである。これなども、触れる学習、現地での学習体験が、参加者の心に響く教室であるという証でもあろう。今後の博物館教室の中でも最も大切にしていかなければならないことと考える。



#### ○ 新規採用教員研修（高校）

高等学校新採研修が7月27日当館で実施された。参加者は約150名、学校教育と博物館との関係をより密にするため、新採教員研修の一部にとり入れて、博物館の概要説明はもとより特に特別展「長良川」について特に解説した。

小中関係の新採研修会も、従来実施されていたが、人数が200名以上こえるため中止されたことは残念なことであった。

#### ○ 出版物

岐阜県博物館報・第6号、岐阜県博物館調査研究報告・第5号、岐阜県博物館だより・No.20～No.22、岐阜県博物館催しもの案内を刊行した。

#### ○ 広報活動

各校長会、教頭会、社会教育担当主事会等において団体利用の依頼をした。特別展の資料発送の際、各市教委へ持参し広報・PRに努めた。他、県の広報媒体を通じての広報、各報道機関への広報、あるいは、チラシを各文化施設、十六銀行の窓口へ配布しPRに努めた。



○ 来館者の動向と意識調査について

教育普及係ではコンパニオン諸氏の協力を得て1月から5月の106日間、来館者の動向と意識調査を実施した。これまでも、特別展を中心に調査を試みてきたが、今回は、特に不特定多数の個人来館者を対象に具体的な意識調査を試みた。初めての調査でもあり、かなり手間取ったが、分析・考察を加えて岐阜県博物館調査研究報告書第5号（P47参照）に掲載した。

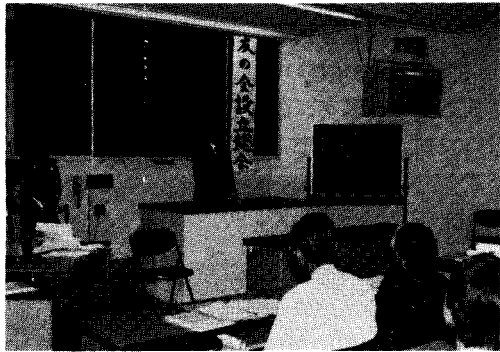
○ 岐阜県博物館 友の会 発足

昭和57年8月、フレンドの会が発足してささやかな活動を続けてきたが、昭和58年10月23日岐阜県博物館友の会として発足した。

吉本前館長のあいさつのもと、西村事務局長の設立に至る経過報告、そして内木茂氏を会長、国光滋夫氏、熊田光久氏を副会長に選出して友の会の前途を期した。

発足当日の会員 106名

現在の会員 187名 昭和59年7月1日現



(2) 教育普及活動

1. 昭和58年度 各種講演会及び教室等の参加人数

	月・日	教室名	テーマ・内容	講師	対象	参加人数	備考
人文関係	5. 8	講演会	縄文人の生活	信大 大 学 教 授 大 参 大 義 教 一 神 奈 川 大 学 教 授 丹 羽 大 学 教 授 男	一 般	162	
	10. 23	"	新しい時代を築いた人々	京大 齋 長 類 研 究 所 江 原 昭 昭	"	51	
	5. 22	人文教室	人骨は語る	当 館 学 芸 主 事 野 博 之	中学生以上 一 般	128	
	10. 16	人文移動教室	先覚者のふるさとをたずねて	当 館 学 芸 主 事 野 博 之	"	12	
	6. 5	月 剣 教 室	刀と人生・刀の手入れ	県 重 要 無 形 文 化 財 保 持 者 伊 佐 治	"	18	
	11. 20	"	" ・ 刀の製造	県 重 要 無 形 文 化 財 保 持 者 佐 田 出 兼	"	22	
	5. 15	歴史教室	藩のしくみ	当 館 学 芸 主 事 片 野 雅 夫	中学生以上 一 般	15	
	7. 24	"	村のしくみ	"	"	11	
	9. 25	"	農民騒動	"	"	8	
	11. 27	"	水と農村	"	"	8	
	5. 29	親子考古教室	不破の関の発掘をさぐる	当 館 学 芸 主 事 松 正 広	親 と 子	30	
	8. 14	"	火おこし器をつくろう	"	"	28	
	8. 21	"	"	"	"	62	
	自然関係	8. 7	講演会	長良川のアユ	岐 阜 大 学 教 授 和 名 古 屋 大 学 教 授 森 下 吉 弘 龍 雄	一 般	69
6. 26		自然教室	化石が語る郷土のおいたち	百 丹 本 野 鳥 の 会 丹 羽 大 学 教 授 野 鳥 宏	中学生以上 一 般	51	
7. 10		"	岐阜県の鳥・野鳥観察のたのしみ	岐 阜 大 学 教 授 大 内 幸 雄	"	20	
8. 28		"	森林のめぐみとわたしたち	岐 阜 大 学 教 授 大 内 幸 雄	"	55	
7. 23 24		自然観察会	郡上郡姪ヶ野	当 館 学 芸 主 事 柴 田 佳 孝 小 野 木 三 郎	"	47	
4. 24		自然観察教室	百年公園の植物しらべ	当 小 館 野 木 学 芸 主 事 野 木 三 郎	小学生以上 一 般	20	
10. 9		"	百年公園の昆虫しらべ	当 小 館 野 木 学 芸 主 事 野 木 三 郎	"	16	
6. 12		"	百年公園の植物しらべ	当 小 館 野 木 学 芸 主 事 野 木 三 郎	"	46	
11. 13		"	百年公園の昆虫しらべ	当 小 館 野 木 学 芸 主 事 野 木 三 郎	"	37	
11. 6		自然移動教室	飛騨川流域の自然をたずねて	当 館 学 芸 主 事 笠 原 芳 雄	"	23	
教育普及	9. 11	手づくり教室	竹細工	石 原 文 雄	小・中学生	21	
	12. 4	"	版画あそび	当 館 学 芸 主 事 井 野 昭 彦	"	45	
	12. 18	"	しめなわづくり	大 野 仁 久	"	49	
	7. 26 30	夏休み学習相談		当 館 学 芸 主 事 担 当	"	21	
	8. 25 28	"		"	"	5	

## 2. 日曜映画会 (16mm・スライド・VTR)

期 間	題 名	観覧者数
4月22日～5月29日	ぼくたちの古代発見・日本の古墳・百年公園と博物館 ようこそ博物館 (スライド)	763
7月19日～9月4日	百年公園と博物館・あゆ・奥美濃 長良川流域の動物と植物 (スライド) ようこそ博物館 (スライド)	1,126
10月7日～11月23日	岐阜の一世紀・伝統産業・郡上本染・美濃焼を支える 刀匠・雪国の紙づくり・水郷の春・富有柿のふるさと ようこそ博物館 (スライド) 博物館で働く人々 (スライド)	1,136

## 3. 昭和58年度 岐阜県博物館刊行物一覧表

名 称	発行年月日	版 ・ 頁	部 数	備 考
岐阜県博物館だより 第20号	58. 4. 1	B 5 4頁	2,500	
〃 第21号	58. 7. 1	〃	2,500	
〃 第22号	58. 9. 1	〃	2,500	
岐阜県博物館報 第6号	58. 7. 1	B 5 32頁	1,500	
岐阜県博物館調産研究報告 第5号	59. 3. 31	B 5 70頁	1,000	
昭和58年度岐阜県博物館催しもの案内	58. 4. 1	A 3	20,000	
特別展 図録 岐阜県の考古遺跡 郷土の生んだ先覚者	58. 4. 22 58. 10. 7	B 5 40頁 B 5 40頁	600 400	内 300有料 (900円)
特別展 リーフ 長 良 川	58. 7. 19	A 2 8折	12,000	
特別展 ポスター 岐阜県の考古遺物 長 良 川 郷土の生んだ先覚者	58. 4. 22 58. 7. 19 58. 10. 7	A 2 A 2 B 3	1,800 1,800 1,800	

## 4. 教育普及活動のスナップ

26教室、どの教室も熱心な方々一・小・中学生からご老人まで一で教室は熱気に包まれていた。手づくり教室以外の教室のほとんどに出席して下さる方もおられる。主催者側としては、これほど頭のさがることはない。入館者が多い少ないの問題ではなく、館の教育にどれだけの人が主体的に参加して自ら学んでもらえたかという質こそ博物館教育の原点であると考えている。

生涯教育という言葉を目にしてから久しいが当館の教育普及活動の博物館教室こそ、生涯教育の一役を担うものとして自負したいし今後さらに発展させたいと考える。

## ★ 特別展 長良川 記念講演会

8月7日

講師 和田吉弘氏

「長良川のアユ」をテーマに、アユの習性・アユの養殖実験の結果をまじえての楽しい話。



★ 刀剣教室 6月5日

講師 伊佐地勉可氏

「刀と人生」をテーマに先生の研師としての人生体験をふまえて興味深い話であった。後、刀の手入れの仕方を勉強した。



★ 自然観察会 7月23・24日

指導者 丹羽 宏氏

柴田佳章・小野木三郎・宮野伸也(学芸員)

蛭が野高原の清水屋を会場に土曜日午後から翌日午前の1泊2日で野鳥、植物、昆虫観察。



★ 親子考古教室 8月14日

指導者 徳松正広(学芸員)

今年度は「火おこし器」をつくりながら古代人の生活の知恵にふれようと試みた。予想以上の申し込みでうれしい悲鳴だった。



★ 自然移動教室 11月16日

指導者 笠原芳雄(学芸員)

飛騨川流域の自然(地質めぐり)をたずねた。上麻生レキ岩から中生代の地層を探り、上之保村平岩のホタル石を土産にした。



★ 岐阜県の歴史教室 5月15日

指導者 片野雅夫(学芸員)

江戸時代の藩と村のくらしを通して武士と農民のくらしを勉強した。藩のしくみ、村のしくみ、農民騒動、水と農村の4回シリーズ。



★ 手づくり教室 9月11日

講師 石原文雄氏

手づくり教室の恒例になった「竹細工づくり」を今年度も実施した。昨年も参加した顔なじみの人達も数名おられた。

7. 図書・資料寄贈者芳名一覧（順不同）（昭和58年4月1日～昭和59年3月31日）

【博物館関係】	埼玉県立歴史資料館	神戸市立博物館
埼玉県立博物館	東北歴史資料館	瑞浪市化石博物館
栃木県立博物館	豊橋市美術博物館	滋賀県立琵琶湖文化館
国立民族博物館	愛知県陶磁資料館	橿原市立千塚資料館
名古屋市博物館	岐阜県歴史資料館	藤原岳自然科学館
千葉県立総南博物館	京都国立博物館	小山市立博物館
市立函館博物館	千葉県立大根博物館	熱田神宮宝物館
船橋市郷土博物館	鹿児島県立博物館	大町山岳博物館
瑞浪陶磁資料館	岡山県立博物館	内藤記念くすり博物館
浜松市博物館	東京都高尾自然科学博物館	常滑市民俗資料館
小松市博物館	大阪市立博物館	京都府立総合資料館
北九州市立自然史博物館	北海道立三岸好太郎美術館	若狭歴史民俗資料館
富山市科学文化センター	八王子市郷土資料館	京都府立丹後郷土資料館
蒲郡市郷土資料館	北九州市立歴史博物館	千葉県立上総博物館
岐阜市少年科学センター	国学院大学考古学資料館	霊山歴史館
青森県立郷土館	佐賀県立博物館	和歌山県立紀伊風土記の丘資料館
岩手県立博物館	千葉市加曽利貝塚博物館	国立科学博物館附属自然教育園
静岡市立登呂博物館	福岡市立歴史資料館	尾鷲市立中央公民館郷土室
千葉県立安房博物館	関西大学考古学資料室	埼玉県立民俗文化センター
徳島県博物館	石川県美術館	三重県立博物館
鳥取県立博物館	沼津市歴史民俗資料館	小樽市博物館
紙の博物館	瀬戸内海歴史民俗資料館	山梨県埋蔵文化財センター
国立科学博物館	奈良県立民俗博物館	宮島歴史民俗資料館
平塚市博物館	市立名古屋科学館	生活資料館
飛鳥資料館	日本モンキーセンター	福山市立福山城博物館
日本はきもの博物館	瀬戸市歴史民俗資料館	町田市立博物館
浦和市立郷土博物館	リトルワールド	市川考古博物館
神奈川県立博物館	奈良県立橿原考古学研究所	伊良湖自然科学博物館
北見市立北見郷土博物館	山梨県立美術館	川島町公民館
根岸競馬記念公苑	明治村	香川県自然科学博物館
北海道開拓記念館	釧路市立郷土博物館	国立歴史民俗博物館
石川県立郷土資料館	山形県立博物館	兵庫県歴史博物館
仙台市博物館	埼玉県立さきたま資料館	東海大学海洋科学博物館
富士市博物館	渋谷区松濤美術館	大垣市歴史民俗資料館
愛媛県立博物館	斜里町立知床博物館	宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
群馬県立歴史博物館	長野市立博物館	大涌谷自然科学館
長崎県立美術館	日立市郷土博物館	横須賀市博物館
大阪市立自然史博物館	相川郷土博物館	石川県立白山自然保護センター
大田区立郷土博物館	たばこと塩の博物館	東京都埋蔵文化財センター
秋田県立博物館	沖縄県立博物館	神奈川県立埋蔵文化財センター
福井県立郷土歴史博物館	土岐市美濃陶磁歴史館	千葉県文化財センター

伊丹市博物館  
久留里城址資料館  
可児郷土歴史館  
北九州市立考古博物館  
【教育委員会関係】  
弘前市教育委員会  
福島県教育庁  
広島市教育委員会  
世田谷区教育委員会  
東京都教育庁  
鹿児島県教育委員会  
長崎県教育庁  
愛知県教育委員会  
松山市教育委員会  
神奈川県教育庁  
川崎市教育委員会  
相模原市教育委員会  
岡崎市教育委員会  
清瀬市教育委員会  
長野市教育委員会  
いわき市教育委員会  
目黒区教育委員会  
上宝村教育委員会  
高山市教育委員会  
藤橋村教育委員会  
海津町教育委員会  
美濃加茂市教育委員会  
下呂町教育委員会  
加子母村教育委員会  
笠松町教育委員会  
金山町教育委員会  
柳津町教育委員会  
明方村教育委員会  
恵那市教育委員会  
中津川市教育委員会  
可児市教育委員会  
古川町教育委員会  
土岐市教育委員会  
糸貫町教育委員会  
岐阜市教育委員会  
板取村教育委員会  
川島町教育委員会

久々野町教育委員会  
白川町教育委員会  
朝日村教育委員会  
大垣市教育委員会  
【学校関係】  
岐阜大学教育学部  
多治見工業高等学校  
国学院大学博物館学研究室  
岐阜県高等学校生物教育研究所  
加茂高等学校  
市邨学園  
愛知大学文学会  
八幡中学校社会科研究会  
岐阜女子短期大学  
東海女子大学  
多摩美術大学  
大手前女子大学史学研究所  
【研究機関】  
奈良国立文化財研究所  
元興寺文化財研究所  
名古屋栄林局  
鉄斎研究所  
神戸市立教育研究所  
日本美術刀剣保存協会  
アイヌ無形文化伝承保存会  
飛騨郷土学会  
日本実生研究会  
民具製作技術保存会  
東京貝類同好会  
日本常民文化研究所  
東京国立文化財研究所  
地質調査所  
広島県草戸千軒町遺跡調査研究所  
【個人】（敬称略）  
澤 村 守  
福 手 き ぬ  
岩 田 悦 行  
中 島 勝 国  
小 原 二 郎  
小 村 悦 夫  
江 原 昭 善  
千 賀 宣 理

曾 我 伍 郎  
今 井 琢 郎  
広 洞 敏 雄  
石 原 哲 弥  
大 橋 健  
成 木 一 彦  
遠 藤 敏 夫  
臼 井 三 美  
青 木 一 郎  
宮 崎 惇  
武 藤 暁 生  
浅 野 忍  
日本標準  
石灰石鋳業協会